令和７年度

北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題

（現職教員選抜　　前期募集）

高度教職実践専攻　高度教職実践専修

「小論文」

問題用紙

＜諸注意＞

1　試験監督者から「解答はじめ」の指示があるまでは、問題冊子を開かないこと。

2　問題は「Ⅰ　共通問題」と「Ⅱ　選択問題」からなっている。

3　「Ⅰ　共通問題」は受験者全員が解答すること。

4　「Ⅱ　選択問題」は以下の四つの問題から一つを選択し解答すること。

問題Ａ
問題Ｂ
問題Ｃ
問題Ｄ
} Ａ～Ｄのうち一つを選択

5　解答は別紙の解答用紙に記入すること。

6　試験終了後、解答用紙（二枚）のみ提出すること。

令和７年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（現職教員選抜　　前期募集）

「小論文」（１／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

Ⅰ　共通問題

学校における働き方改革を進めるにあたり、中央教育審議会は『「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」（答申）（第 213 号）』（平成 31 年 1 月 25 日）を取りまとめ、これまで学校・教師が担ってきた代表的な業務の在り方に関する考え方について、業務の明確化・適正化の視点から、下の表のとおり整理した。

基本的には学校以外が担うべき業務	学校の業務だが、 必ずしも教師が担う必要のない業務	教師の業務だが、 負担軽減が可能な業務
①登下校に関する対応 ②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応 ③学校徴収金の徴収・管理 ④地域ボランティアとの連絡調整	⑤調査・統計等への回答等 （事務職員等） ⑥児童生徒の休み時間における対応 （輪番、地域ボランティア等） ⑦校内清掃 （輪番、地域ボランティア等） ⑧部活動（部活動指導員等）	⑨給食時の対応 （学級担任と栄養教諭等との連携等） ⑩授業準備（補助的業務へのサポートスタッフの参画等） ⑪学習評価や成績処理 （補助的業務へのサポートスタッフの参画等） ⑫学校行事等の準備・運営 （事務職員等との連携、一部外部委託等） ⑬進路指導 （事務職員や外部人材との連携・協力等） ⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応 （専門スタッフとの連携・協力等）

そこで、中央教育審議会が、上の表のように、これまで学校・教師が担ってきた代表的な業務を三つに分類、整理した趣旨について述べなさい。また、その趣旨を踏まえ、学校として業務の分類・整理を進めていく上で留意すべきことについて記述しなさい。

なお、字数は 601 字から 800 字とする。

（配点１００点）

令和７年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（現職教員選抜　　前期募集）

「小論文」（２／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

Ⅱ 選択問題（問題Ａ ～ 問題Ｄのうち一つを選択）

問題Ａ

「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」とは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことである。現行の学習指導要領前文にも、「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている」と掲げられているところである。この ESD の実践にあたっては、学校外の多様な主体（人々や団体、機関）と連携・協働することが何よりも大切となってくる。

そこで、あなたが、校内のミドルリーダーとして ESD の実践にあたるとすれば、児童生徒のどのような資質・能力を伸ばすことを目指し、学校外の多様な主体と、どのように連携し、どのような教育活動を行うか、校種や学年等を設定して具体的に記述しなさい。

なお、字数は 601 字から 800 字とする。

（配点１００点）

令和７年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（現職教員選抜　　前期募集）

「小論文」（３／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

問題Ｂ

教員は、教育相談的な姿勢を心掛けて児童生徒に接していくことが求められる。あなたは、教育相談にどのように取り組むか。課題予防的教育相談の観点である「課題未然防止教育」と「課題早期発見対応」の二つの点から、あなたの考えを記述しなさい。

なお、字数は 601 字から 800 字とする。

（配点１００点）

令和７年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（現職教員選抜　　前期募集）

「小論文」（４／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

問題Ｃ

平成 29・30・31 年に告示された学習指導要領において、「総合的な学習の時間」及び「総合的な探究の時間」の目標が、各学校で定めることとされている趣旨を説明しなさい。また、各学校で定めた目標のもと、どのような内容を設定することが期待されているかも説明しなさい。その際、留意すべき事項などを含めて記述しなさい。

なお、字数は 601 字から 800 字とする。

（配点１００点）

令和７年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（現職教員選抜　　前期募集）

「小論文」（５／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

問題Ｄ

近年、多くの学校で「チームとしての学校」を意識して、学校運営に取り組んでいる。特別支援教育における「チームとしての学校」の充実をはかるために「教員以外の専門スタッフの参画」は重要な要素の一つである。あなたは、教員として、①教員以外のどのような専門スタッフとどのような連携や協力を図っていくのか、②特別支援教育の「チームとしての学校」を実現するための大切な視点は何か、の二つの点について記述しなさい。

なお、字数は 601 から 800 字とする。

（配点１００点）

令和７年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験解答用紙
（現職教員選抜　　前期募集）

「小論文」　（１／２）

高度教職実践専攻 高度教職実践専修	得 点　　点
受験番号（　　）	

Ⅰ　共通問題

10　20　30

10

20
600字

25

800字

「小論文」　（2／2）

高度教職実践専攻 高度教職実践専修	得 点　　点
受験番号（　　）	

Ⅱ　選択問題　　選択した問題に○を付けなさい。

〔　A・B・C・D　〕

10　　20　　30

10

20
600字

25

800字